

特定非営利活動法人 小田原なぎさ会

2017年(平成29年)度事業報告書

2017年(平成29年)度事業報告

1. 主な事業活動の実績と特記

- 小田原地域（小田原市・湯河原町・真鶴町・箱根町 等）で暮らす、精神の障害をはじめとした色々な障害を持つ皆さんが、自立した生活を営み社会復帰と社会参画を促進するための事業を行った。
- この数年の間で多くの試みを開始している。平成29年度は、これらの新しい取組みの地道な継続と内容の充実に重点を置くことを基本方針として各種活動を推進した。
- 作業所の運営では、平成28年度の方針と同様に「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や特性を配慮した就労支援」を活動の2本柱として取組んだ。平成29年度も平成28年度と同様に、利用者（以下、メンバーと記載）3名を就労及び就労に向けてステップアップさせることができた。
- 「改正障害者雇用促進法」が平成28年4月1日に施行され、いよいよ平成30年4月1日から法定雇用率の算定基礎に精神障害者が追加された。この法改正を実効あるものにすべく、この数年にわたり継続して「精神障害者の就労支援の強化」を小田原市長へ強く訴えており、平成29年度も市長への要望書として本内容を提出した。また、私たちにできそうなところからも具体的な就労支援につなげるべく、継続して企業とのコンタクトや、普及啓発・協働の投げかけ等を図った。
- 3年前（平成27年5月）から開始した『メンバー主体の自主活動：エコキャップ活動』は、想定を遥かに超える広がりのある活動に育ってきた。平成30年3月時点までに収集総量1300Kg(約5.6万個)のキャップを収集し、ポリオワクチン換算で約1300名の子供たちへの支援を実現した。また、この活動を通して地域の教育機関との協働（コラボ活動）や各種団体・地域とのつながりを強化することができた。
- 普及啓発及び連携事業の一環として開催している地域ネットワーク会議を平成29年度より下記2部構成とし、地域とのネットワーク構築の更なる強化を図った。以前よりも議論の的が絞りやすくなり、又こじんまりとした会議になったことなどから、より話の深堀ができるようになってきた。
 - ・地域ネットワーク会議A：小田原市全域に関わるような比較的広く・大きな機関等とのつながりから、ネットワークを構築・強化
 - ・地域ネットワーク会議B：当法人に比較的近い地域で活動されている機関や住民の皆様とのつながりから、ネットワークを構築・強化

- 正式ロゴマークを作成した。今までは当面の対応として仮に作ったロゴマークを使っていたが、今回正式なロゴマークを完成させた。ロゴマークで示す3色の架け橋は、本法人の3事業である①施設の設置・運営、②普及・啓発、③連携を意味する。また、建物の壁掛け看板も本ロゴマークを掲載したものに一新した。今後、本ロゴマークをホームページやリーフレット及び各種展示物等に積極使用し、普及啓発等に活用していく。
- ホームページを更に発信力のある見やすい内容に一新した。このホームページやリーフレットを見て、作業所への通所見学に訪れてくる方も多くなってきている。また、外部への普及啓発や連携（協働）の強化にも活用していく。
- Facebookを新たに開設した。広く普及啓発等に活用していく。
- 事務所に保管する書類の整備と整理（センターファイル化）の充実化などを逐次推進し、認定NPO法人としての活動基盤強化や業務効率化を図った。
- 職員の資質向上を目指して、研修等への参加を強化した。
S S T研修、「障害者権利条約」講演会、「障害のある当事者の声を聴く」講演会、団体広報に活かすFacebook講座 等に参加

2. 事業内容

- (1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業
 - (2) 精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業
 - (3) 関連機関・団体との連携に関する事業
- 上記、(1)～(3)の事業を推進するため、下記の各活動を行った。

尚、主な活動の実績を添付別紙1「平成29年度の主な活動計画と実績」に示す。

* 総会・理事会・月例会議・地域ネットワーク会議等の開催

- ① 特定非営利活動法人小田原なぎさ会の通常総会を5月24日に開催し、年度を通した各事業の取組み状況報告及び各議案の審議を行った。
- ② 理事会を開催し、当会の運営及び各事業について協議するなど法人運営と事業推進に努めた。（開催日：4/19、9/27、3/14）3回
- ③ 月例会議を毎月定例開催し、作業所における日々の活動を中心として協議するなど施設運営事業を推進した。また普及啓発事業や連携事業などを含めた法人運営全般に関わる情報共有の強化を図った。
（開催日：原則毎月第1金曜日）12回
- ④ 地域ネットワーク会議を開催し、地域を巻き込んだ活動展開について協議するなど関係先との連携事業を推進した。
 - ・地域ネットワーク会議A 開催日：5/24、9/27、3/14 3回
 - ・地域ネットワーク会議B 開催日：6/14、10/27、2/21 3回

(1) 施設の設置、運営事業（地域拠点活動 等）

○小田原なぎさ作業所（以下、作業所と記載）の運営

・内容：

- ①日々の活動であるメンバーの各種生産活動（作業）について、その生産計画策定や作業指導を職員が連携して順調に推進した。また朝夕のミーティングや室内清掃などは極力メンバー主体で自主的に行うようにシステム化し運用した。その他の週間活動（習字教室・パソコン教室等）や、お誕生会・社会見学・バス旅行（H28年度に引き続き2回実施）などの各種イベントと共に、作業所周辺の歩道清掃やエコキャップ活動などの社会貢献活動の充実化にも注力した。これらの活動を通して、メンバーが自ら生活のリズムを整えることやソーシャルスキルを向上すること、そして社会参画の意識を向上することにつなげる支援を行った。
- ②メンバー一人ひとりの障害の程度や希望・特性を配慮しながら自立（自律）促進を推進した。このために、個別支援計画を作成し、モニタリング・アセスメントなどを活用して、個々にきめ細かな支援を図った。
- ③昨年に引続き、障害に関する映画上映とその後の意見交換を行い、メンバー自身が自分を見つめなおす機会を設けた。
- ④畑体験では、昨年度から新たに加えた植付体験に、更に管理体験を盛り込み、「植付⇒管理⇒収穫」と一連の体験活動まで進展させ、内容を充実させた。自然とのふれあいや畑作業の大変さと喜びを体感できる場を設けた。また、自分たちで育てた野菜(ジャガイモ)を使ってカレーライスを作り(収穫祭)、収穫の喜びをメンバーと共に関係者全員で分かち合った。
- ⑤3年前から開始したエコキャップ活動は、「私たちも誰かを支援できる！」を合言葉にメンバーが主体になって推進する自主活動である。メンバー・職員・役員などの粘り強い活動に加え、周囲からの強力な応援のおかげをもって想定を遥かに超える広がりのある活動に育ってきた。このような活動を通して、メンバー自身が自らの存在価値を再認識すると共に、その達成感ややりがいを感じたり、自主性や社会参画意識の向上につなげていきたい。
- ⑥毎年の富士見地区防災訓練への参加に加え、平成29年度から新たに作業所独自の避難訓練を開始した。また非常時用のヘルメットなども整備した。
- ⑦地域のボランティア活動の皆さんを積極的に受け入れた（現時点で2名）。
- ⑧悩みや相談ごとのあるメンバーのために、多くの相談の場を設けた。

等

- ・日時： 開所日数234日
- ・場所： NPO 法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 10名程度

(2) 普及・啓発事業（地域交流活動 等）

○地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行

・内容：

- ①富士見地区防災訓練への参加や市展をはじめとした各種作品展への参加などを積極的に推進し、地域との交流に注力した。
- ②恒例イベントになりつつある「なぎさ祭（第4回）」を開催し、地域交流と普及啓発に努めた。
- ③前述の『エコキャップ活動』を地域の教育機関（酒匂中学校の生徒会、国際医療福祉大学の学友会）との協働（コラボ活動）として継続的に推進した。これらの活動を地道に推進し、更に地域との交流活動を発展させていく。
- ④2年目になる「クリスマス地域交流会」を継続して開催した。地域のボランティアさんや住民さんとの交流を深めることができた。

等

- ・日時： 随時（年10回以上）
- ・場所： 各々開催場所及び関係機関や地域全般
- ・従事者： 10名程度

○リーフレットや機関紙・ホームページ等の活用

・内容：

- ①認定NPO取得に伴い改訂したリーフレットを活用して、普及啓発を推進した。
- ②機関紙を2回発行した。（No. 22：4月1日、No. 23：10月1日）
- ③地域のご協力の下、富士見地区を中心に上記機関紙を配布（回覧）するなどにより、地域交流や普及啓発に注力した。
- ④リーフレットや機関紙を8機関に常設させていただき、継続的な普及啓発事業の強化を図った。
- ⑤情報発信のツールとしてとても効果的と考えるホームページを一新し、当法人の活動紹介と地域社会への理解や協働の投げかけを強化した。また、新しい通所希望者へのつながりツールとしても活用実績が出始めている。

等

- ・日時： 常時
- ・場所： NPO 法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 数名程度

○精神障害者の就労支援の拡大展開（例；企業とのコラボ活動探索）

- ・内容： 「改正障害者雇用促進法」の施行を踏まえ、私たちにできそうなところから具体的な就労支援につなげるべく、企業への協働提案などを模索した。

- ・日時： 随時
- ・場所： 地域全般
- ・従事者： 数名程度

○行政との懇談会・要望活動

- ・内容：平成30年度に向けた要望書を小田原市長へ提出した（連携団体梅の会と連名）。当法人からはこの数年に渡り「精神障害者の就労支援の強化（雇用促進の取組強化と就労定着に向けた環境整備）」に的を絞って、粘り強く要望を続けている。
- ・日時：12月25日
- ・場所：小田原市役所
- ・従事者：数名程度

(3) 連携に関する事業（地域ネットワーク活動 等）

○地域ネットワーク会議（A・B）

- ・内容：医療・福祉・行政などの機関や地域住民の方々に参加していただき、地域福祉の推進に向けたネットワーク会議を開催し、連携強化を推進した。平成29年度より下記2部構成とし、各々の会議構成者の特徴を活かしてネットワーク構築の更なる強化と充実化を目指した。
- ・日時：地域ネットワーク会議A 開催日：5/24、9/27、3/14 3回
地域ネットワーク会議B 開催日：6/14、10/27、2/21 3回
- ・場所：NPO 法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者：10名程度

○関係団体や連携団体との交流活動

- ・内容：神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会（県精連）や小田原市障害者事業所連絡会（市事連）及び地域精神保健福祉連絡協議会・小田原地区精神保健福祉会「梅の会」などの関連団体や連携団体のイベントや協議に参画するなど、各団体との協力・交流・連携の強化を図った。
- ・日時：年10回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：数名程度